

# 招待席

## 多様な医療ニーズに応え得る一つの「解」として ゲノム医療の普及、啓発を進めていきたい

「ビス」の普及に期待がかかる。

次世代の医療として期待され注目が集まる「オーダーメイド医療」。

病気の原因となるゲノム（遺伝情報）の解析技術が飛躍的に進み、患者が遺伝子検査の結果を元に、個人に最適な治療や投薬などを受ける事のできる新しい発想の「医療サー

ビス」の普及に期待がかかる。

だが、病気自体の原因解明や治療法の確立という旧来の医療のあり方と百八十度異なり、患者「ことに見合った医療サービスが提供される」ということになれば、医療現場、その最前線（臨床）も従来通りというわけにはいかなくなる。

患者の属性も、ガンや脳梗塞、生活習慣病などの「再発」を危惧する人、家系（遺伝的）で特定の病気を心配する未病・健康体の

人、旧来の医療で治療中ながら、治療効果が芳しくない人など、さまざま。旧来医療の射程外に置かれて

いる患者および患者予備軍にとって、オーダーメイド医療の普及は特に期待が大きい。

具体的にオーダーメイド医療への

ニーズはあるものの、わが国でその取り組みはニーズに込んでいるとは言いがたく、臨床現場に導入されているケースもまだまだ少ないというのが実情だ。

その普及のボトルネックとなっているのが、一つに遺伝子検査を基にオーダーメイド医療を提供できる「専門医」の不足だ。

そこで、患者のニーズに積極的に応えたいとする医師向けに、最新の医療情報の提供と専門医たる担い手の啓発、育成を目的に設立されたのが「臨床ゲノム医療研究会（理事長・渥美和彦氏）」だ。

遺伝子検査やその結果に基づいた食生活などの生活指導を行う医療機関は、すでに存在するが、これでは病気の可能性だけを患者はポンと示

されたに等しく、その後の予防や再発防止、治療効果確認などをどのように進めていけば良いか、いたずらに不安感を患者に与えるだけに止まっているケースもあるという。

「現在では、ヒトの各部位（消化器、泌尿器など）特有のガン関連遺伝子が解析され、遺伝子検査によって、超早期でのガン細胞存在リスクを知ることができます。ガンは治療する時代から、予防する時代へと変わっていくでしょう。こうした次世代の医療を推進していく下地づくりが当研究会の目的です。わが国では、下地すら十分に整備されているとは言えない現状を憂いている段階ではない。患者さまのニーズに応える責任が医療にはあると思います」（渥美氏）

今後に期待したい。



臨床ゲノム医療研究会理事長

### 渥美和彦